

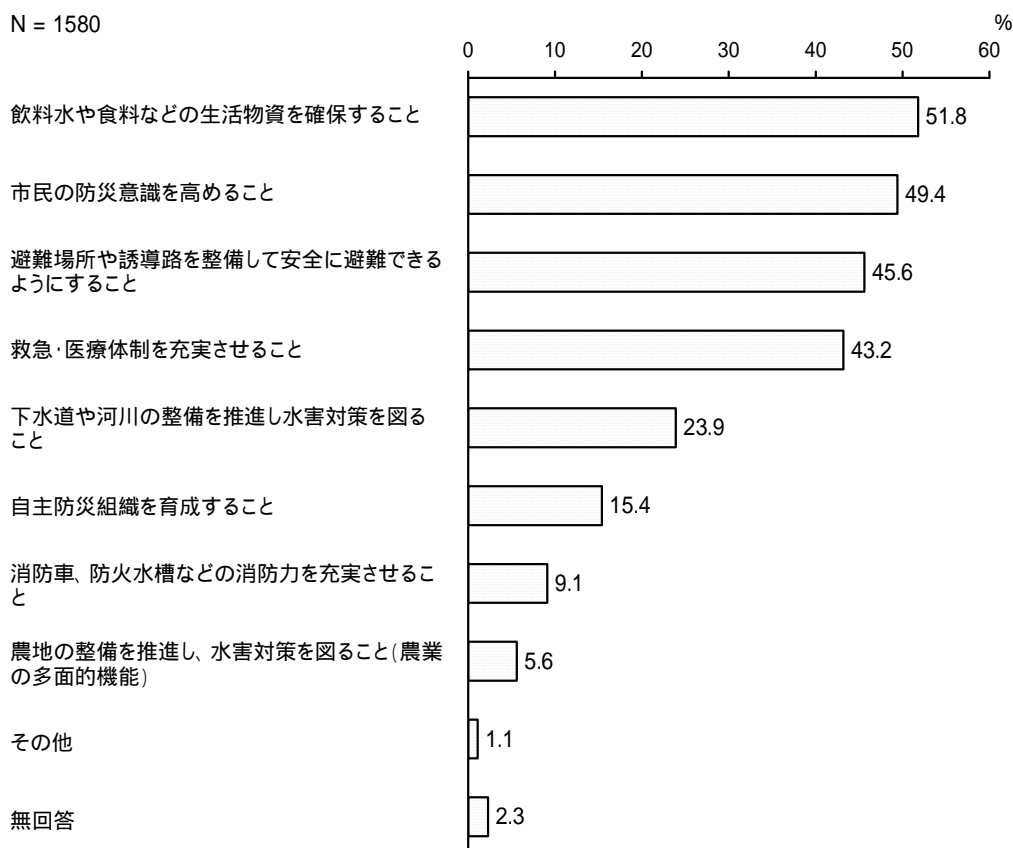
6 地域社会と市民生活

6 - 1 防災対策

「飲料水や食料などの生活物資を確保すること」が51.8%

問 36 あなたは、防災対策として、どのような施策が必要だと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。(は3つ以内)

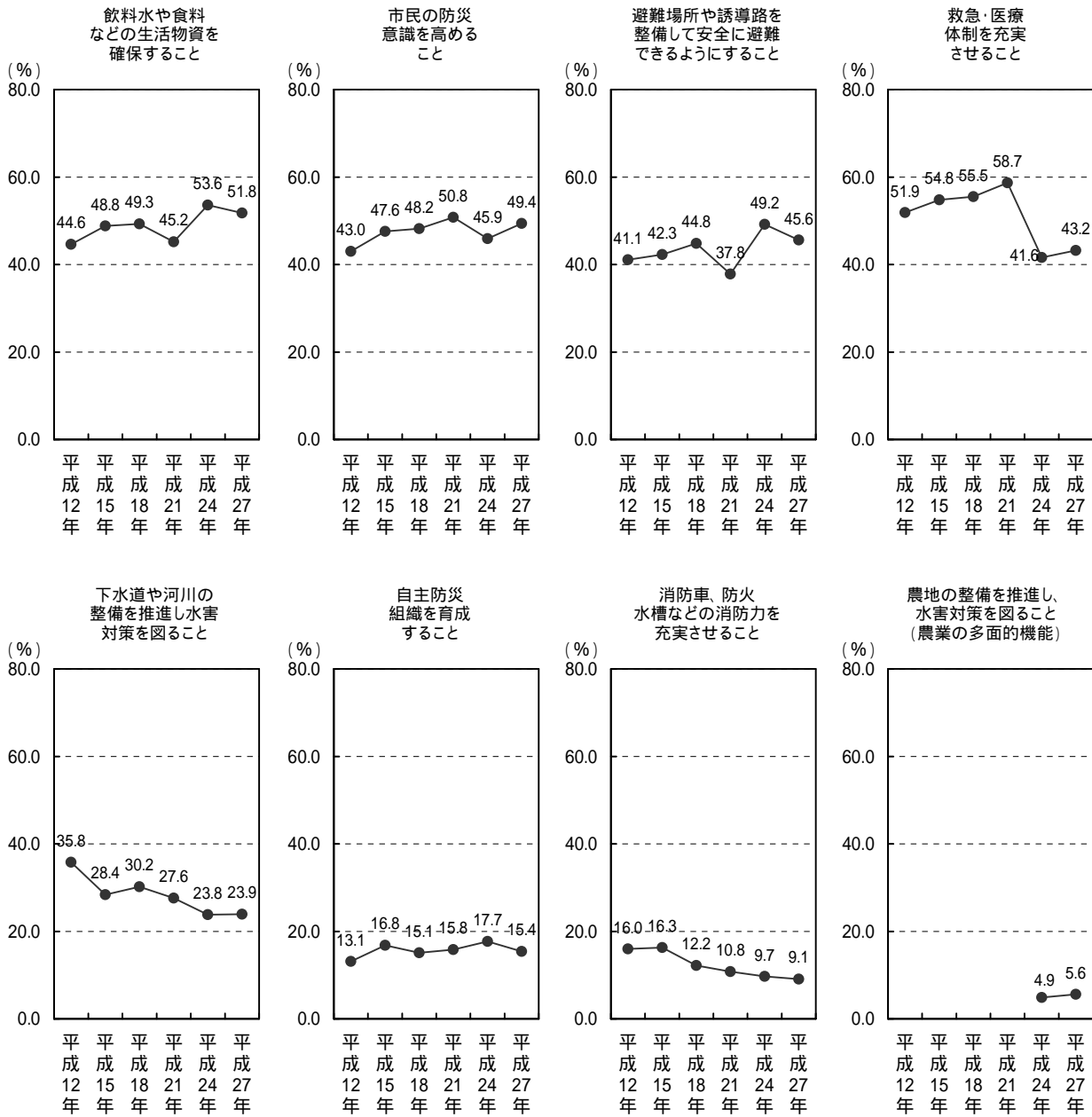
図 6 - 1 - 1



防災対策として必要な施策をたずねたところ、「飲料水や食料などの生活物資を確保すること」(51.8%)が最も多く、50%を超えている。以下、「市民の防災意識を高めること」(49.4%)、「避難場所や誘導路を整備して安全に避難できるようにすること」(45.6%)、「救急・医療体制を充実させること」(43.2%)などの順となっている。(図6-1-1)

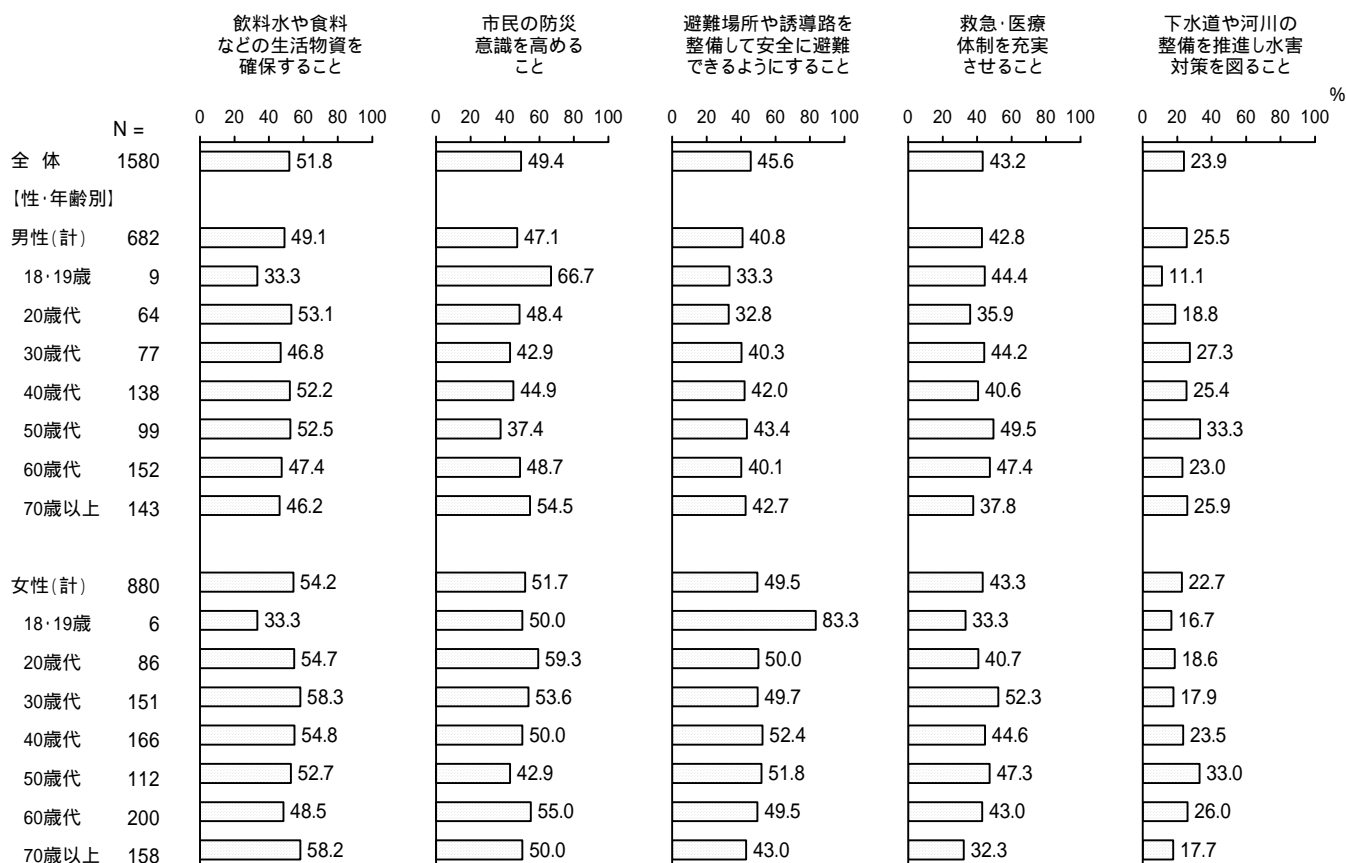
時系列でみると、「避難場所や誘導路を整備して安全に避難できるようにすること」は前回調査と比べて3.6ポイント減少している。(図6-1-2)

図6-1-2 時系列 防災対策



上位5項目を性・年齢別にみると、「市民の防災意識を高めること」は女性20歳代が60%近くで多くなっている。「救急・医療体制を充実させること」は女性30歳代が50%を超えて多くなっている。「下水道や河川の整備を推進し水害対策を図ること」は女性50歳代が30%を超えて多くなっている。(図6-1-3)

図6-1-3 性・年齢別 防災対策

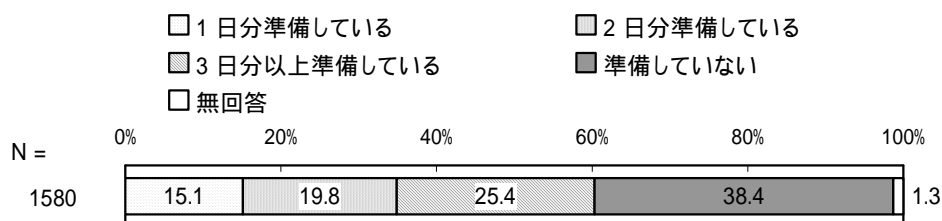


6 - 2 水・食料の備蓄量

「3日分以上準備している」は25.4%

問 37 東日本大震災以降、個人で3日分以上の水や食料の備蓄が必要といわれておりますが、あなたは何日分準備していますか。(は1つ)

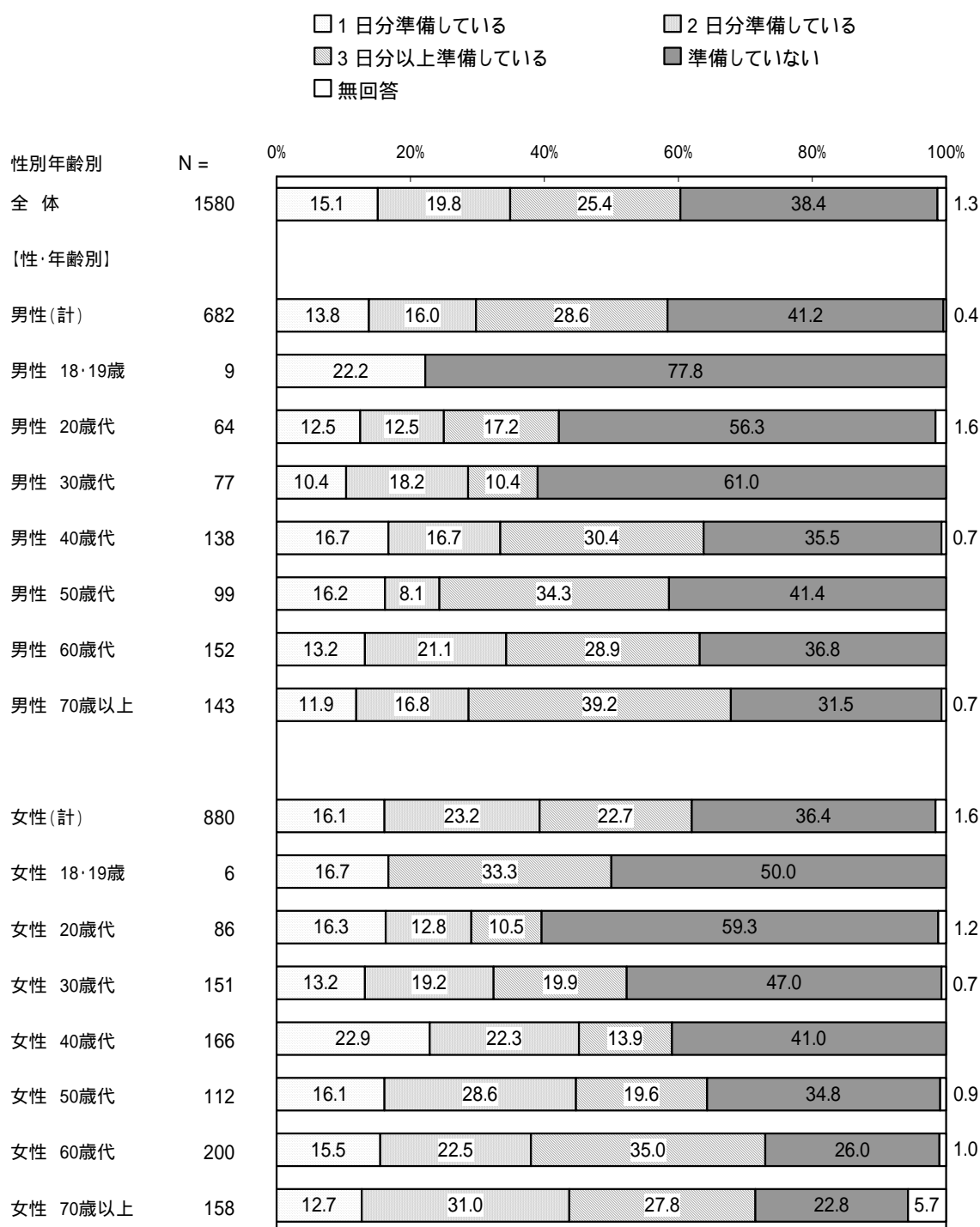
図 6 - 2 - 1



水・食料の備蓄量をたずねたところ、「3日分以上準備している」(25.4%)が20%を超えており、「2日分準備している」(19.8%)が20%近く、「1日分準備している」(15.1%)が10%半ばとなっている。また、「準備していない」(38.4%)は40%近くとなっている。(図6-2-1)

性・年齢別にみると、「3日分以上準備している」は男性70歳以上が40%近くで多くなっているが、男性20歳代、30歳代と女性の20歳代から50歳代の年代では10%台にとどまっている。「準備していない」は女性20歳代、男性20歳代、30歳代がいずれも60%近くと多くなっている。(図6-2-2)

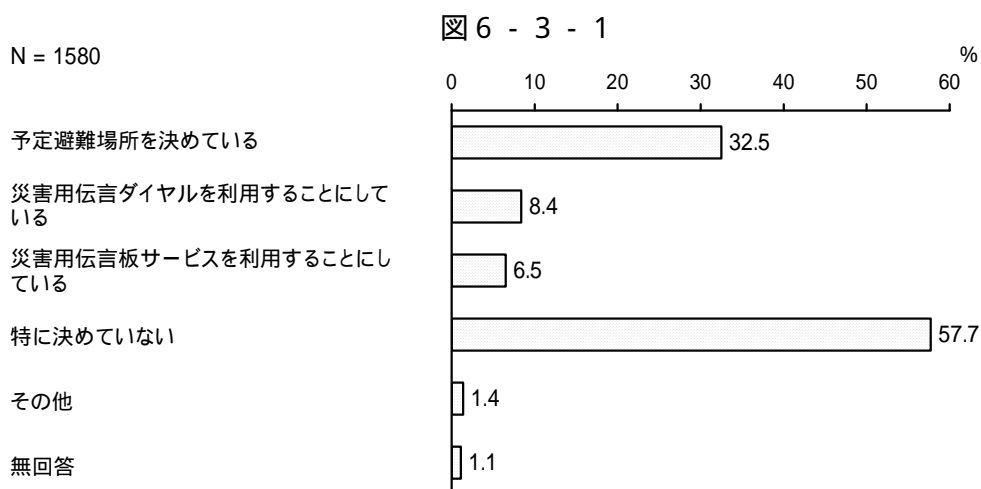
図6-2-2 性・年齢別 水・食料の備蓄量



6 - 3 家族等との安否確認手段

「予定避難場所を決めている」が32.5%、「特に決めていない」が57.7%

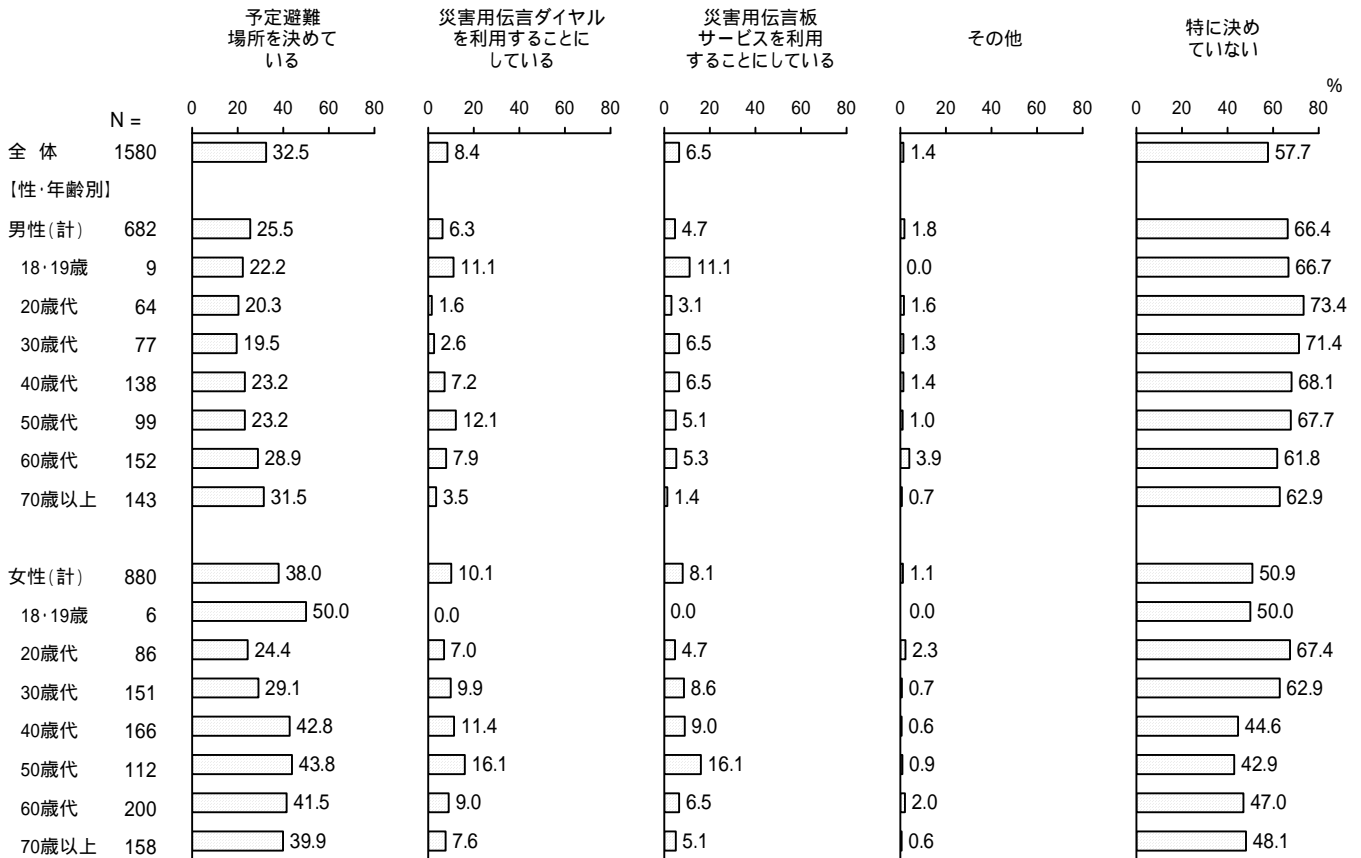
問 38 あなたは、家族等との安否確認手段を決めていますか。(はいくつでも)



家族等との安否確認手段を決めているかたずねたところ、「特に決めていない」(57.7%)が最も多く、60%近くとなっている。以下、「予定避難場所を決めている」(32.5%)、「災害用伝言ダイヤルを利用している」(8.4%)、「災害用伝言板サービスを利用している」(6.5%)の順となっている。(図6 - 3 - 1)

性・年齢別にみると、「予定避難場所を決めている」は女性（38.0%）が男性（25.5%）より12.5ポイント高くなっており、女性40歳代から60歳代が40%を超えて多くになっている。「特に決めていない」は男性（66.4%）が女性（50.9%）より15.5ポイント高くなっており、特に男性20歳代、30歳代が70%を超えて多くになっている。（図6-3-2）

図6-3-2 性・年齢別 家族等との安否確認手段

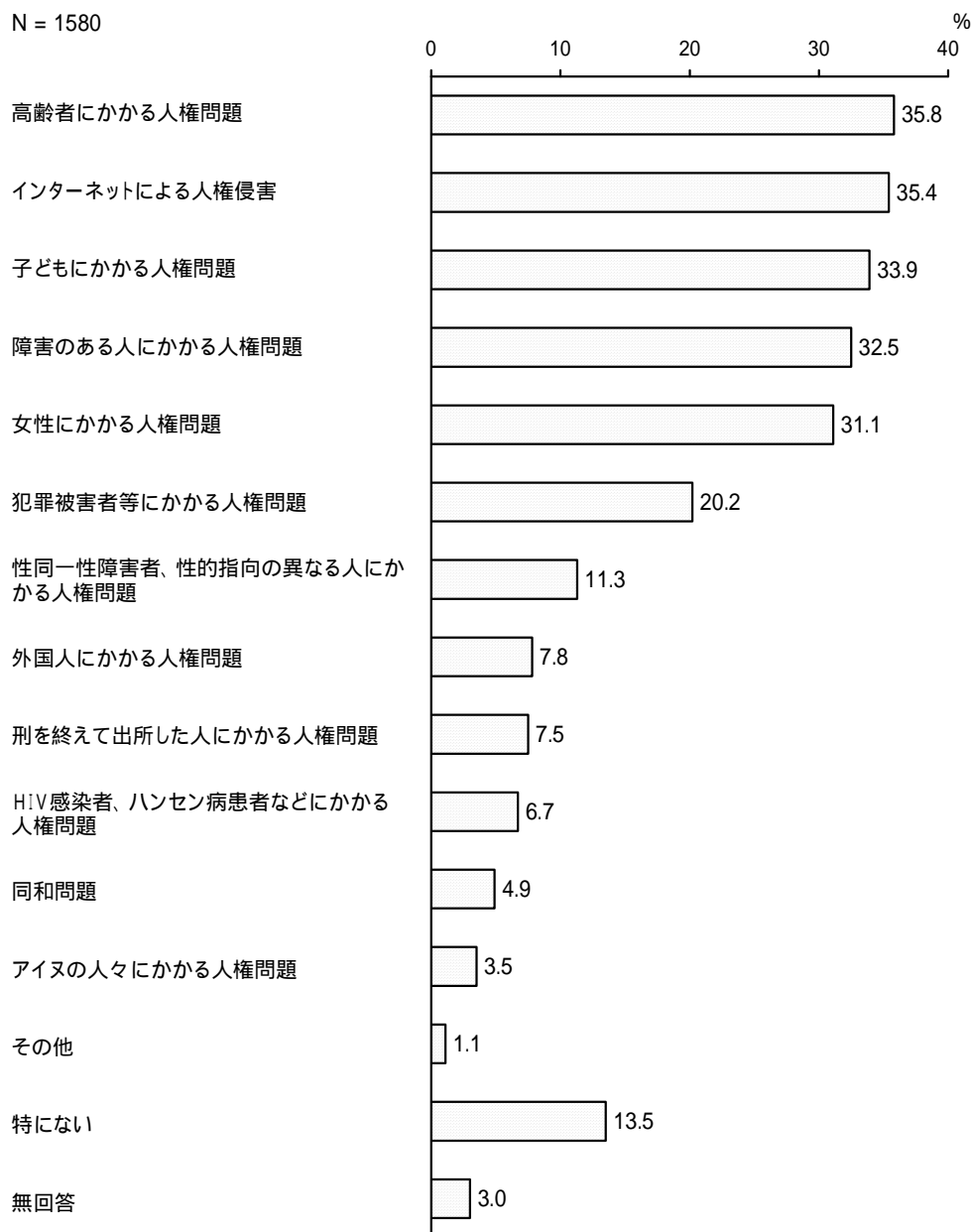


6 - 4 関心のある人権問題

「高齢者にかかる人権問題」が 35.8%、「インターネットによる人権侵害」が 35.4%

問 39 現在、日本の社会には基本的人権に関わる問題がいくつかありますが、あなたが関心のあるものはどのようなものですか。(はいくつでも)

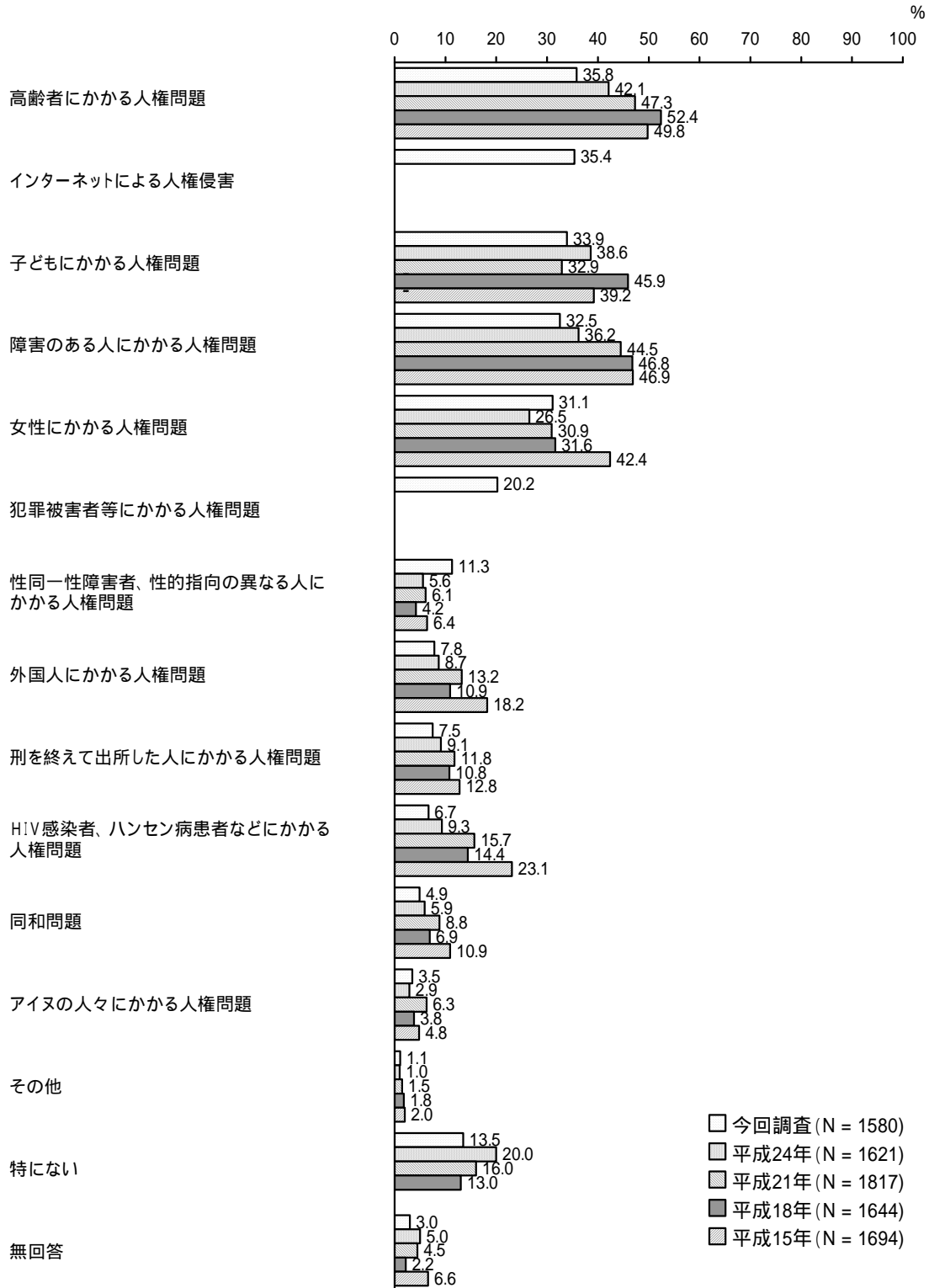
図 6 - 4 - 1



関心のある人権問題をたずねたところ、「高齢者にかかる人権問題」(35.8%) が最も多く、「インターネットによる人権侵害」(35.4%)、「子どもにかかる人権問題」(33.9%)、「障害のある人にかかる人権問題」(32.5%)、「女性にかかる人権問題」(31.1%)などの順となっている。また、「特になし」は 13.5%となっている。(図 6 - 4 - 1)

時系列でみると、前回調査と比べて、「高齢者にかかる人権問題」は6.3ポイント、「子どもにかかる人権問題」は4.7ポイント、「障害のある人にかかる人権問題」は3.7ポイント減少している。一方、「女性にかかる人権問題」は4.6ポイント、「性同一性障害者、性的指向の異なる人にかかる人権問題」は5.7ポイント増加している。また、「特にない」は6.5ポイント減少している。(図6-4-2)

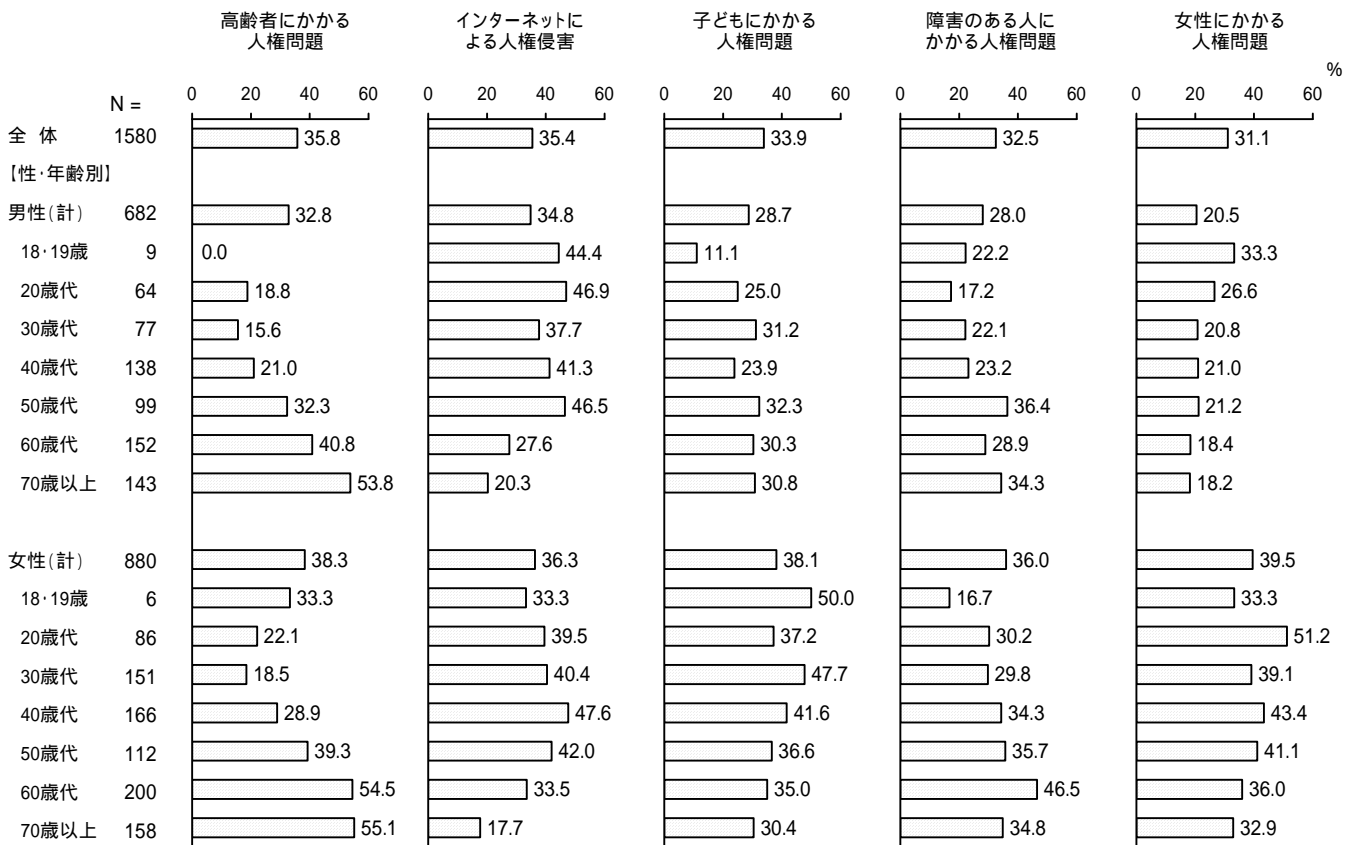
図6-4-2 時系列 関心のある人権問題



上位5項目を性・年齢別にみると、「高齢者にかかる人権問題」は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高くなる傾向にある。「インターネットによる人権侵害」は、男性20歳代、50歳代、女性40歳代でいずれも50%近くと多くなっている。「子どもにかかる人権侵害」は女性30歳代で50%近くと多くなっている。「障害のある人にかかる人権問題」は女性60歳代が40%半ばで多くなっている。「女性にかかる人権問題」は女性20歳代で50%を超えて多くなっている。

(図6-4-3)

図6-4-3 性・年齢別 関心のある人権問題

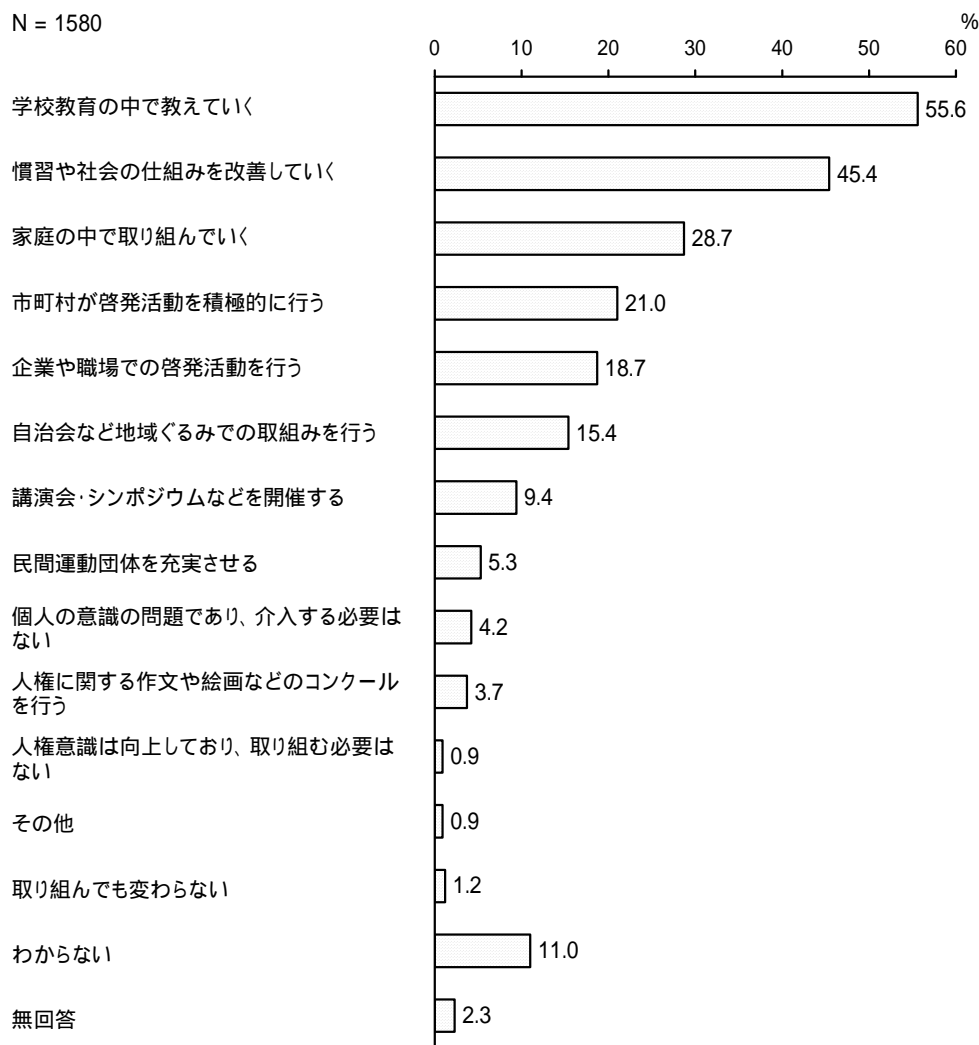


6 - 5 人権意識を高めていくために必要な取組

「学校教育の中で教えていく」が55.6%

問 40 人権問題についての理解を深め、人権意識を高めていくためには、今後どのような取組が必要だとお考えですか。(はいいくつでも)

図 6 - 5 - 1

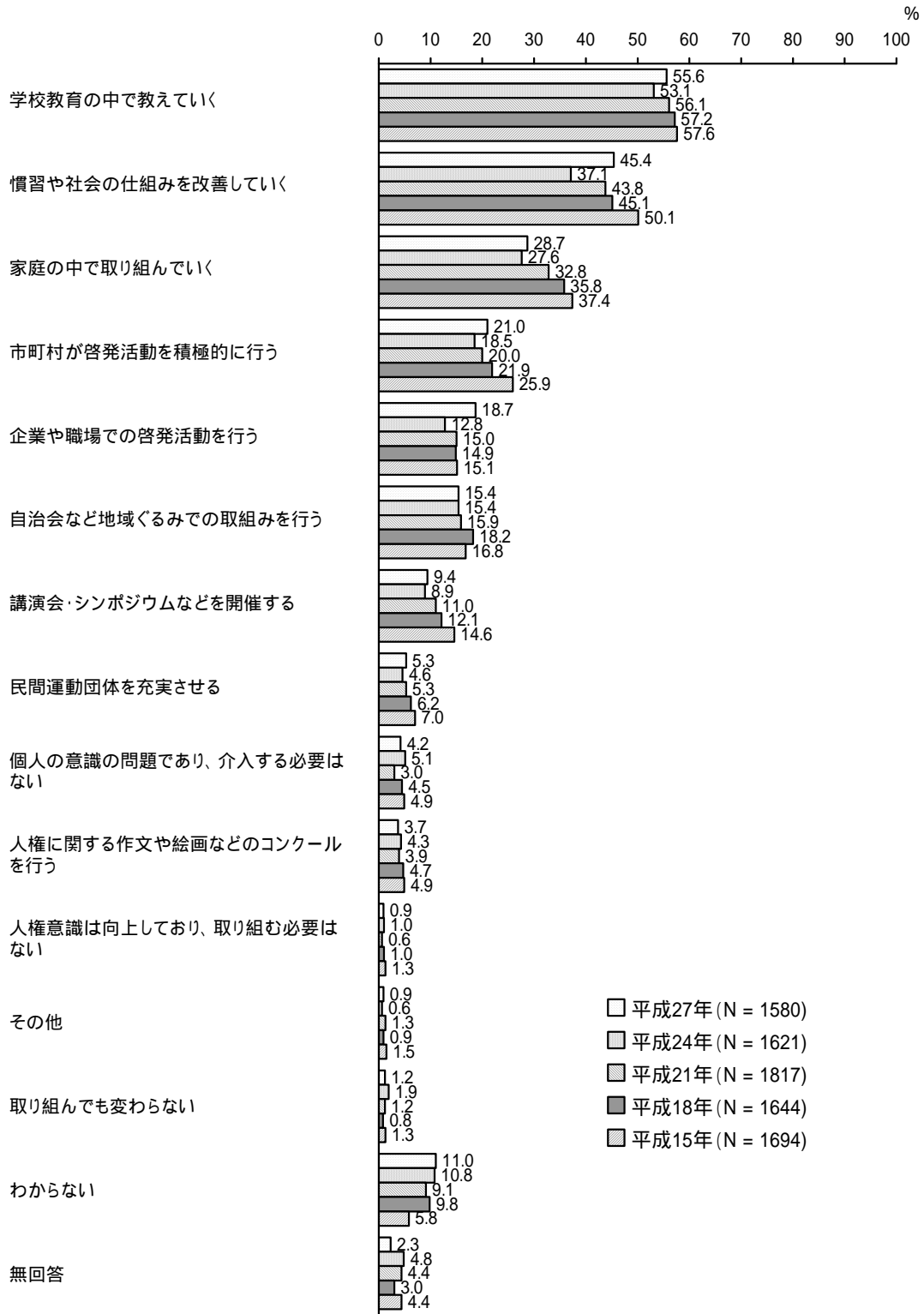


人権意識を高めていくために必要な取組をたずねたところ、「学校教育の中で教えていく」(55.6%)が最も多く、50%半ばとなっている。以下、「慣習や社会の仕組みを改善していく」(45.4%)、「家庭の中で取り組んでいく」(28.7%)、「市町村が啓発活動を積極的に行う」(21.0%)、「企業や職場での啓発活動を行う」(18.7%)、「自治会など地域ぐるみでの取組を行う」(15.4%)などの順となっている。(図6-5-1)

時系列でみると、「慣習や社会の仕組みを改善していく」は8.3ポイント、「企業や職場での啓発活動を行う」は5.9ポイント増加しているが、その他の項目では大きな変動はみられない。

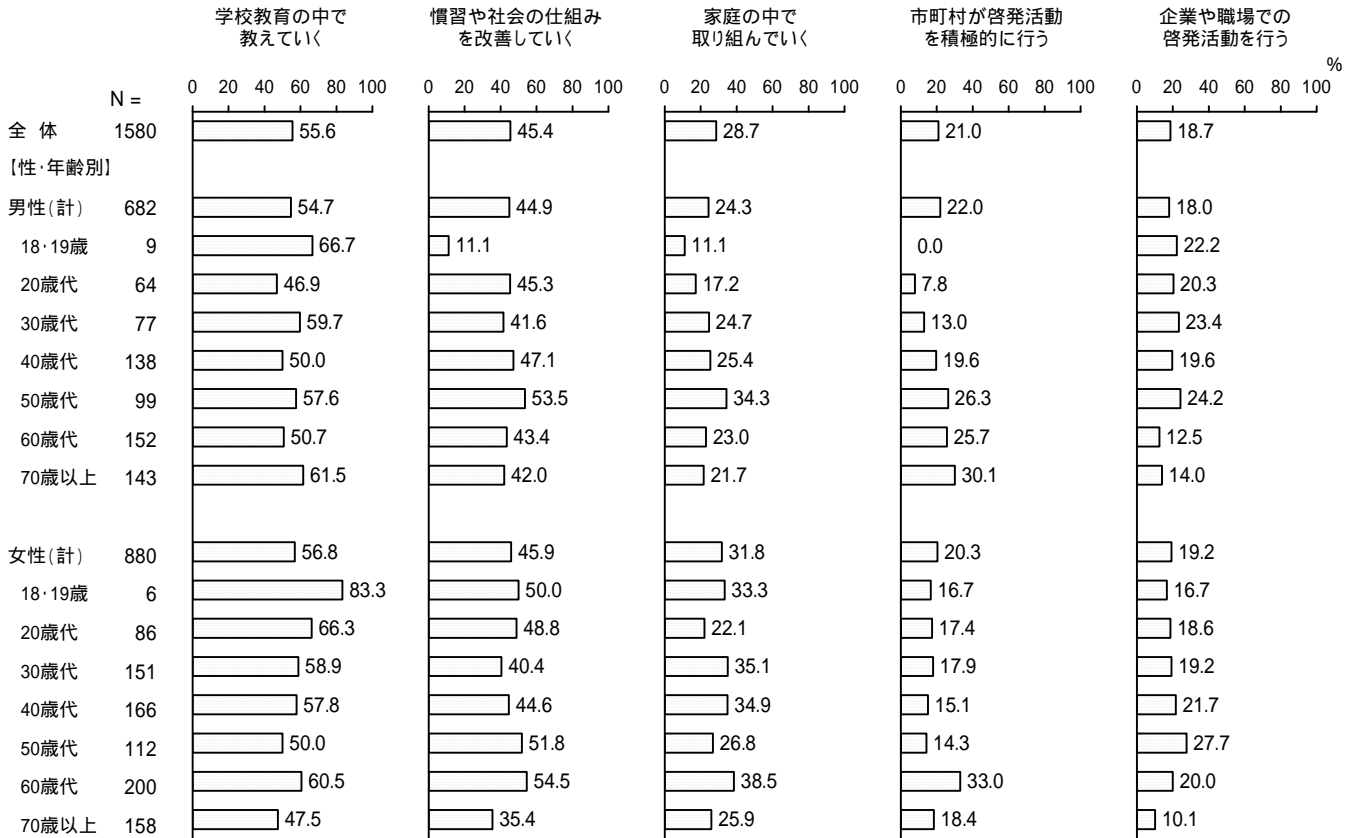
(図6-5-2)

図6-5-2 時系列 人権意識を高めていくために必要な取組



上位5項目を性・年齢別にみると、「慣習や社会の仕組みを改善していく」は男性50歳代、女性50歳代、60歳代がいずれの年代も50%を超えて多くなっている。「市町村が啓発活動を積極的に行う」は男性で年代が高くなるほど割合が高くなっている。(図6-5-3)

図6-5-3 性・年齢別 人権意識を高めていくために必要な取組

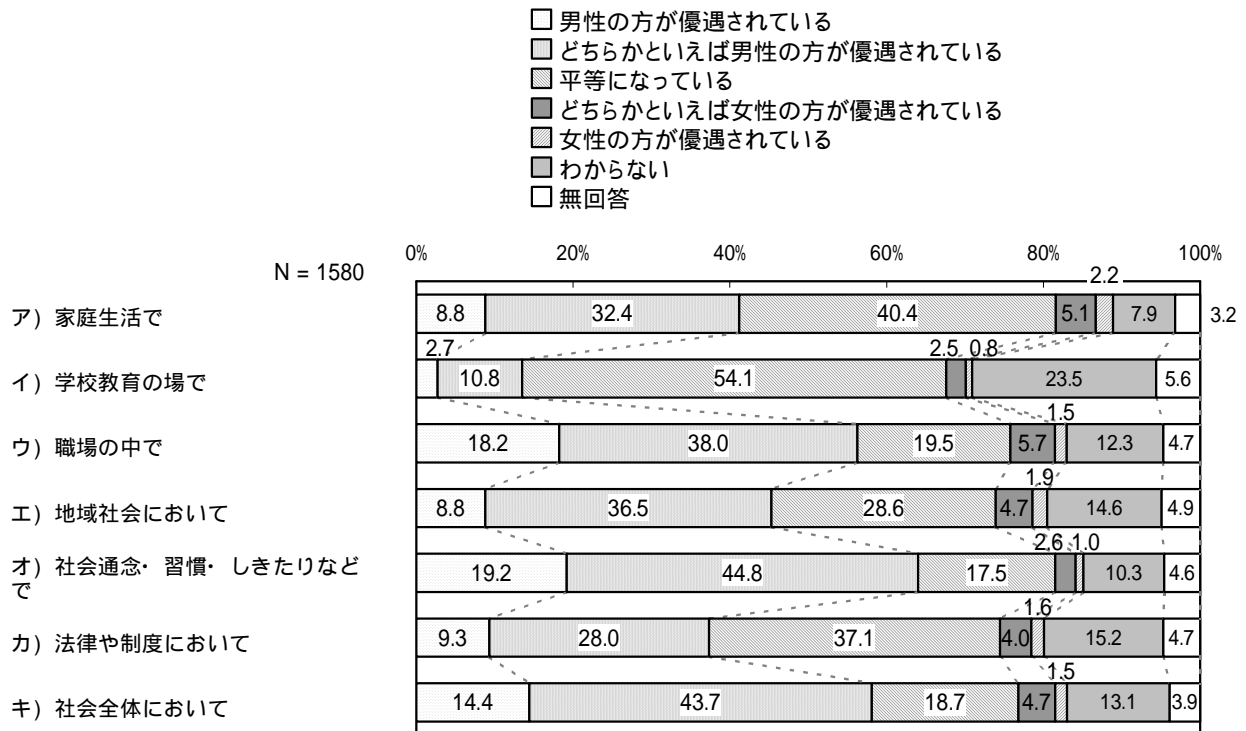


6 - 6 男女平等に関する意識

「平等になっている」は『学校教育の場で』が最も多く 54.1%

問 41 あなたは、男女の地位が平等になっていると思いますか。各項目ごとに1つだけ選んでください。(は1つずつ)

図 6 - 6 - 1



男女平等に関する意識をたずねたところ、「平等になっている」は『学校教育の場で』(54.1%) が最も多く、50%を超えている。以下、『家庭生活で』(40.4%) 『法律や制度において』(37.1%) などの順となっている。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた、<男性優遇>は、『社会通念・習慣・しきたりなどで』(64.0%) が最も多く、60%半ばとなっている。以下、『社会全体において』(58.1%) 『職場の中で』(56.2%) などの順となっている。

「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた、<女性優遇>は、すべての項目で10%未満となっている。(図 6 - 6 - 1)

時系列でみると、『家庭生活で』では、＜男性優遇＞が減少傾向にある。

『学校教育の場で』では、「平等になっている」が50%前後で推移しており、大きな傾向の違いはみられない。

『職場の中で』では、＜男性優遇＞がおおむね減少傾向にある。

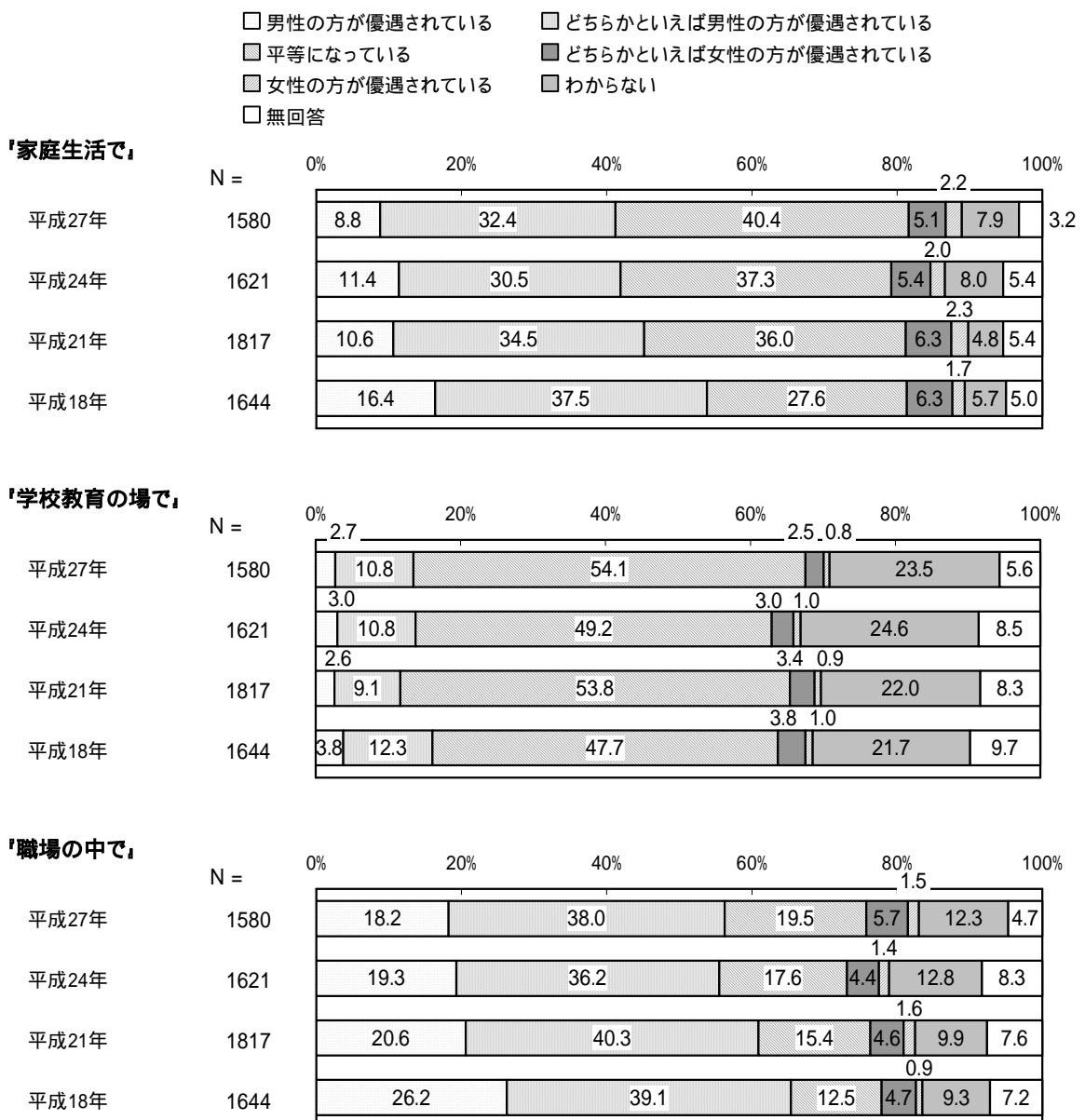
『地域社会において』では、平成21年以降＜男性優遇＞が40%前後で推移しており、大きな傾向の違いはみられない。

『社会通念・習慣・しきたりなどで』では、平成21年以降＜男性優遇＞が60%前後で推移しており、大きな傾向の違いはみられない。

『法律や制度において』では、＜男性優遇＞がやや増加し、前回調査と比べて4.2ポイント増加している。

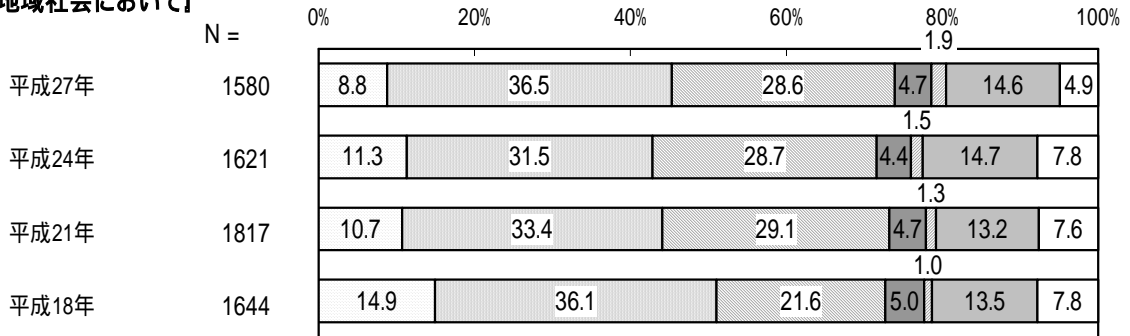
『社会全体において』では、＜男性優遇＞がやや増加し、前回調査と比べて4.7ポイント増加している。(図6-6-2)

図6-6-2 時系列 男女平等に関する意識

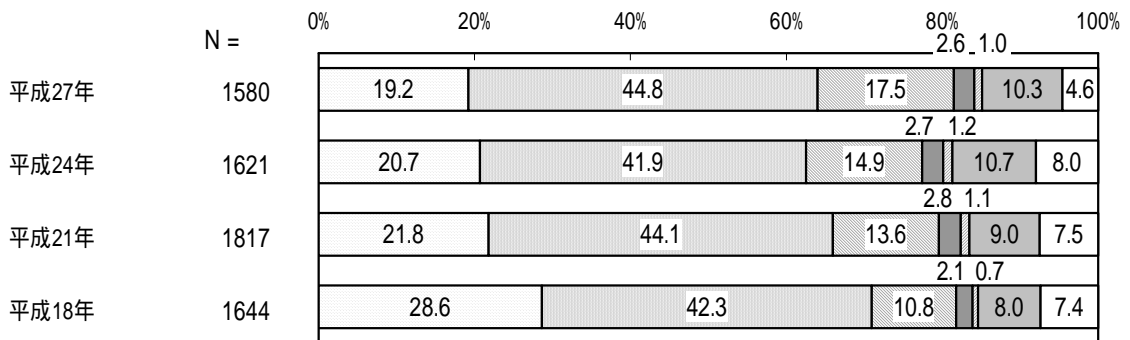


- 男性の方が優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等になっている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が優遇されている
- わからない
- 無回答

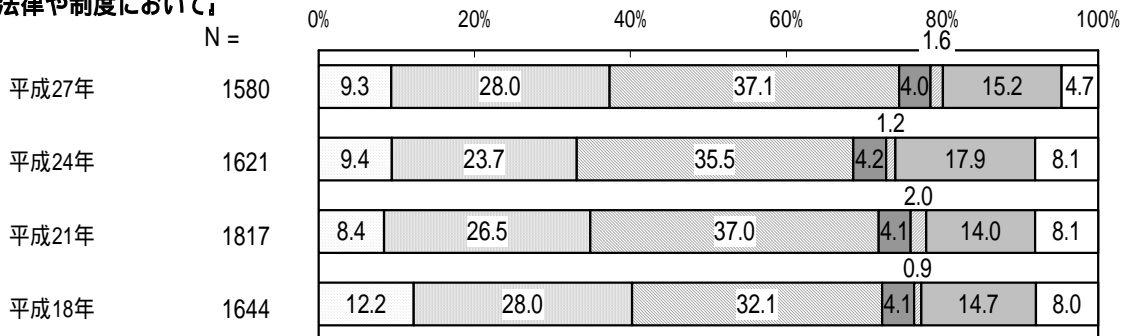
「地域社会において」



「社会通念・習慣・しきたりなどで」



「法律や制度において」



「社会全体において」



性・年齢別にみると、『家庭生活で』では、＜男性優遇＞は女性（48.5％）が男性（32.1％）より16.4ポイント高く、特に女性40歳代、50歳代がいずれも60％近くと多くなっている。

『学校教育の場で』では、「平等になっている」は男性50歳代と女性20歳代が60％を超えて多くなっている。＜男性優遇＞は女性40歳代が20％を超えている。

『職場の中で』では、＜男性優遇＞は女性（61.4％）が男性（50.2％）より11.2ポイント高く、特に女性50歳代、60歳代がどちらも70％を超えて多くなっている。

『地域社会において』では、＜男性優遇＞は女性（52.2％）が男性（36.6％）より15.6ポイント高く、特に女性50歳代が70％近くと多くなっている。

『社会通念・習慣・しきたりなどで』では、＜男性優遇＞は女性（68.6％）が男性（59.2％）より9.4ポイント高く、特に女性50歳代、60歳代が70％半ばで多くなっている。

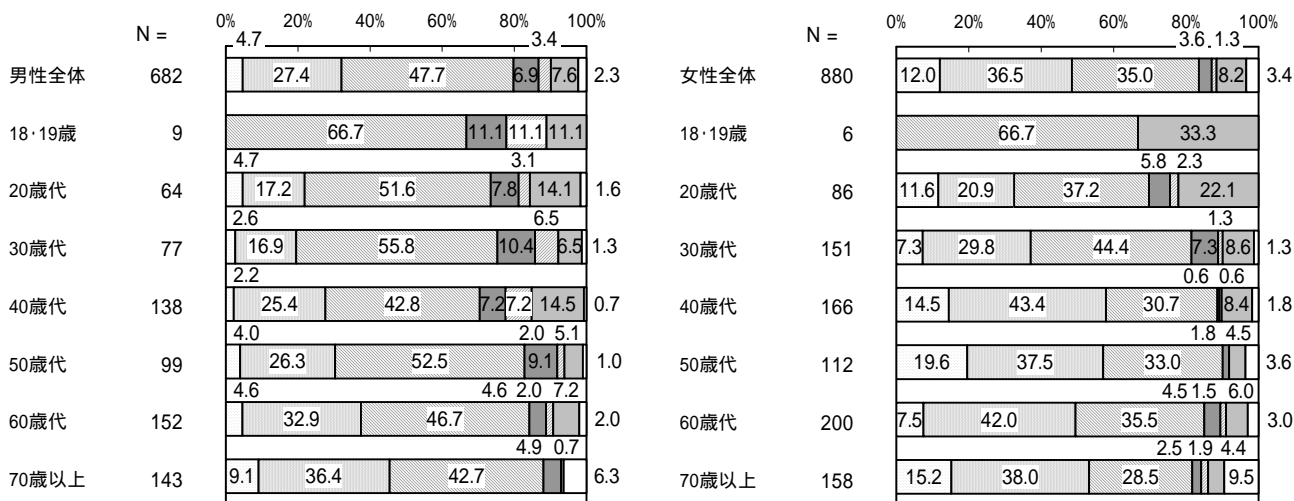
『法律や制度において』では、＜男性優遇＞は女性（45.7％）が男性（27.4％）より18.3ポイント高く、特に女性50歳代が60％近くで多くなっている。

『社会全体において』では、＜男性優遇＞は女性（65.2％）が男性（49.5％）より15.7ポイント高く、特に女性40歳代、50歳代がどちらも70％を超えて多くなっている。（図6-6-3）

図6-6-3 性・年齢別 男女平等に関する意識

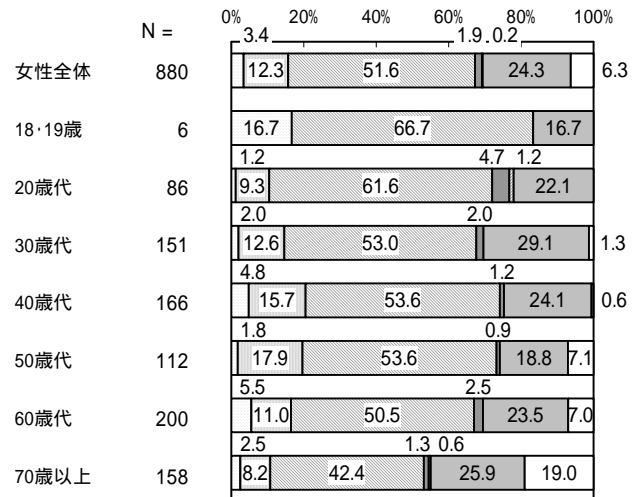
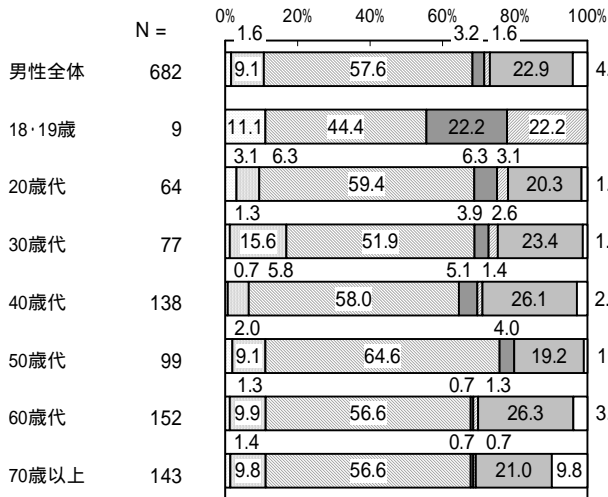
- 男性の方が優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等になっている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が優遇されている
- わからない
- 無回答

『家庭生活で』

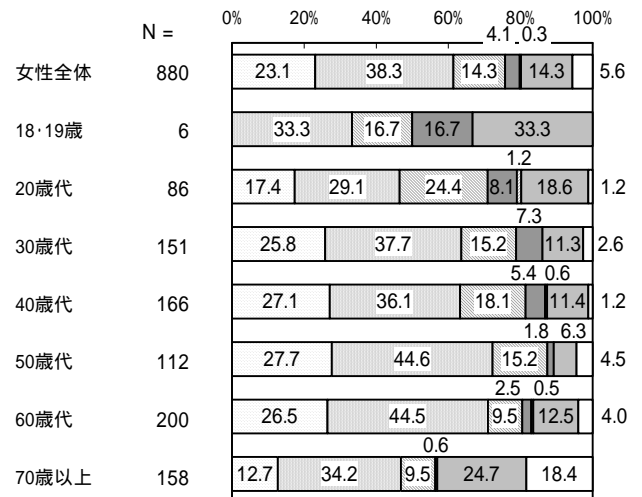
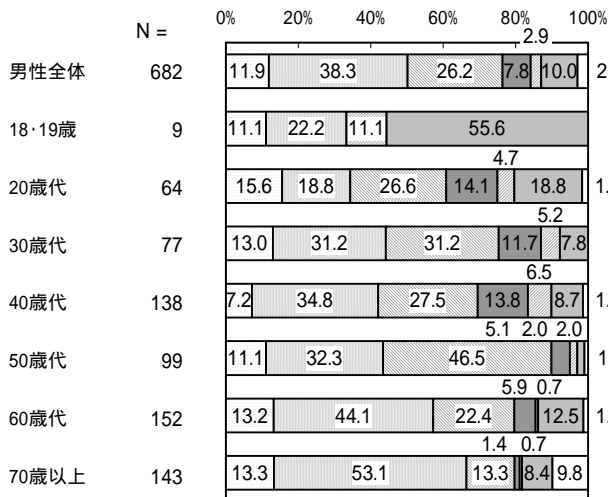


『学校教育の場で』

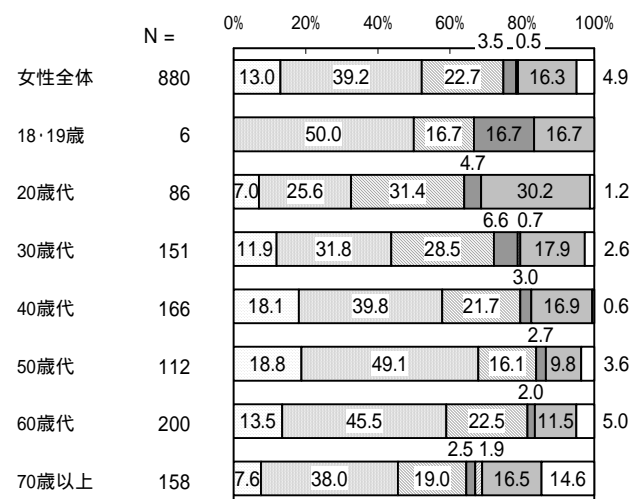
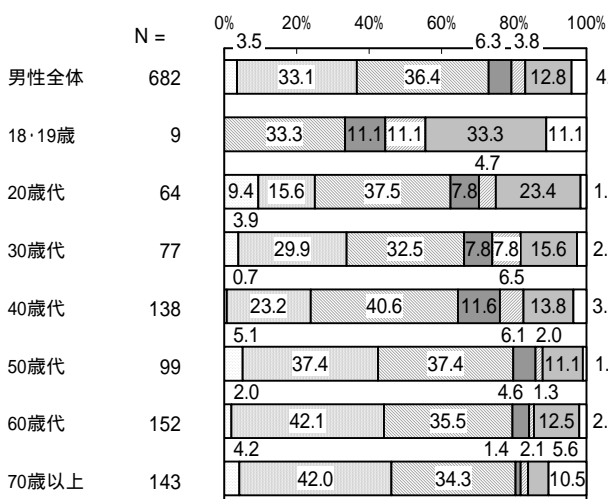
- 男性の方が優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等になっている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が優遇されている
- わからない
- 無回答



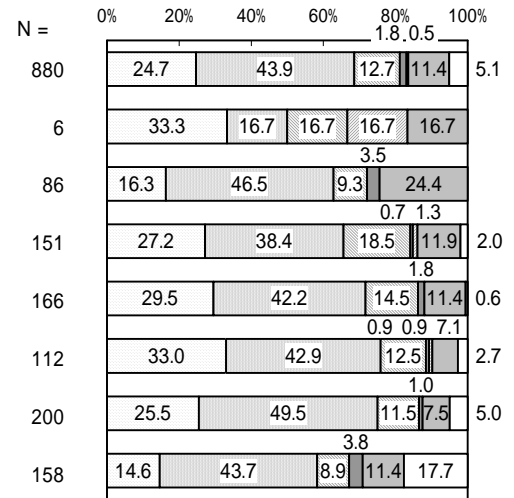
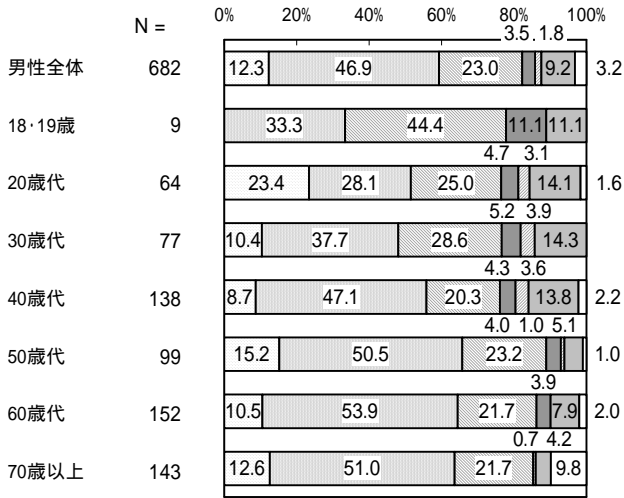
『職場の中で』



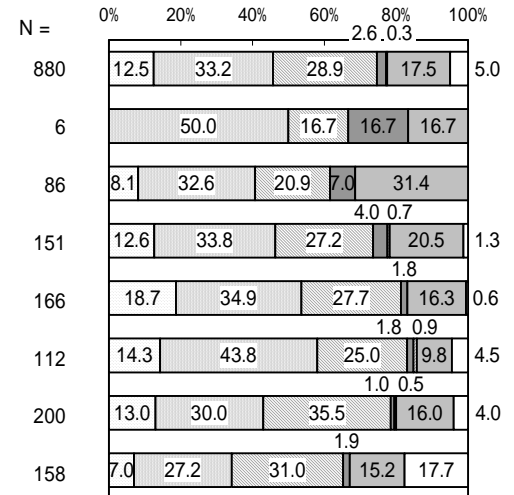
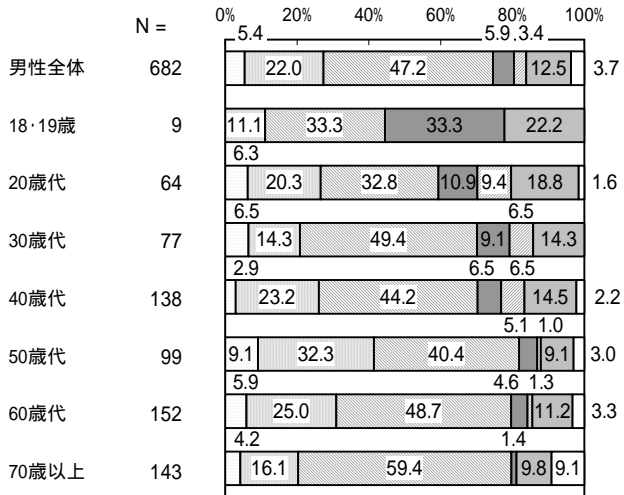
『地域社会において』



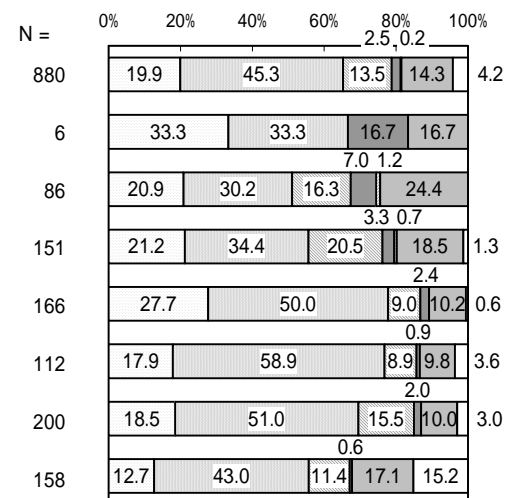
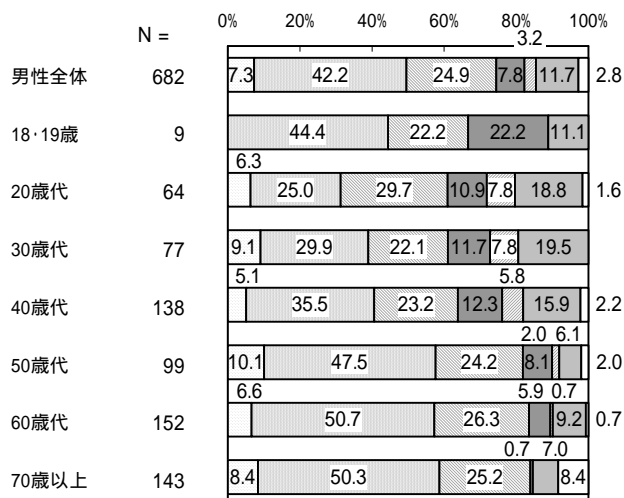
『社会通念・習慣・しきたりなどで』



『法律や制度において』



『社会全体において』



「男は仕事、女は家庭」という考え方（問 42・149 ページ参照）別にみると、『家庭生活で』では、＜男性優遇＞は、“ そう思う ”(49.5%)が“ そう思わない ”(42.4%)より 7.1 ポイント高くなっている。

『学校教育の場で』では、＜男性優遇＞は、“ そうは思わない ”(16.4%)が“ そう思う ”(11.7%)より 4.7 ポイント高くなっている。

『職場の中で』では、「平等になっている」は、“ そうは思わない ”(21.4%)が“ そう思う ”(13.3%)より 8.1 ポイント高くなっている。

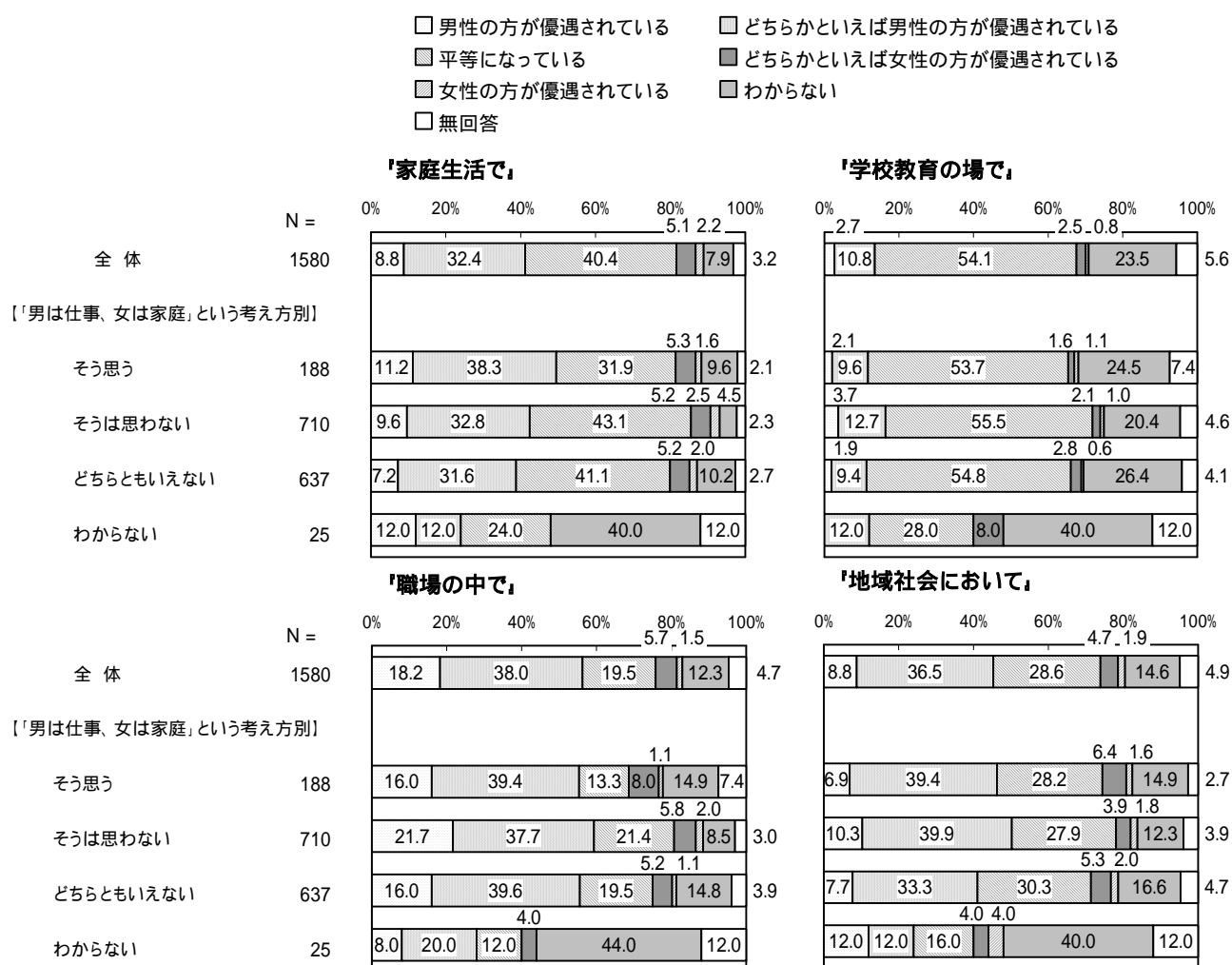
『地域社会において』では、考え方の違いによる大きな傾向の違いはみられない。

『社会通念・習慣・しきたりなどで』では、＜男性優遇＞は、“ そうは思わない ”(67.9%)が“ そう思う ”(60.1%)より 7.8 ポイント高くなっている。

『法律や制度において』では、＜男性優遇＞は、“ そうは思わない ”(42.4%)が“ そう思う ”(31.4%)より 11.0 ポイント高くなっている。

『社会全体において』では、＜男性優遇＞は、“ そうは思わない ”(64.0%)が“ そう思う ”(59.0%)より 5.0 ポイント高くなっている。(図6-6-4)

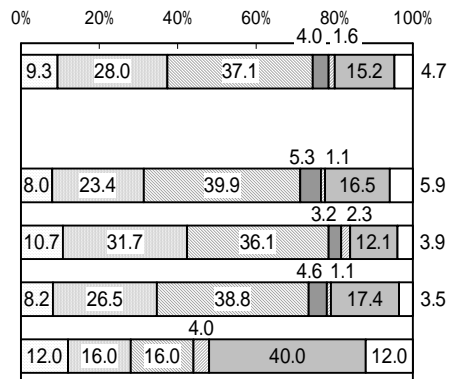
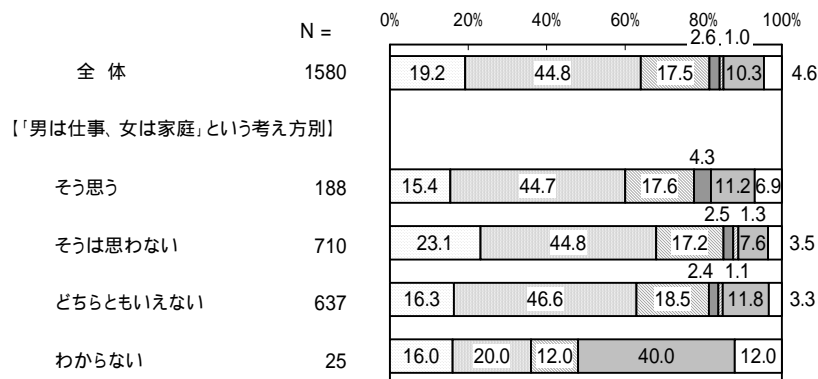
図6-6-4 「男は仕事、女は家庭」という考え方別 男女平等に関する意識



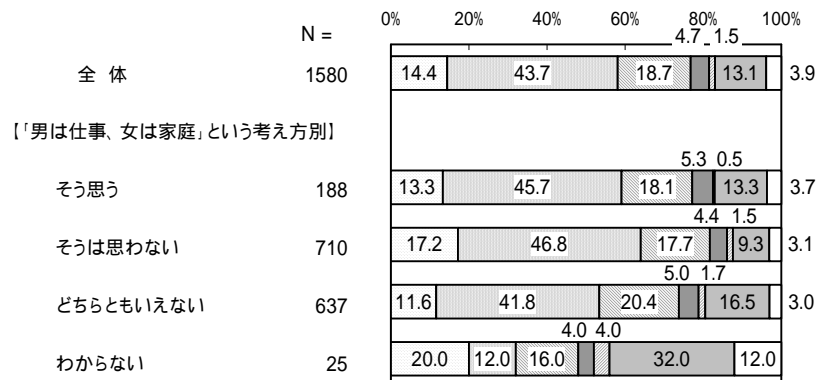
- 男性の方が優遇されている
- 平等になっている
- 女性の方が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- わからない

「社会通念・習慣・しきたりなどで」

「法律や制度において」



「社会全体において」

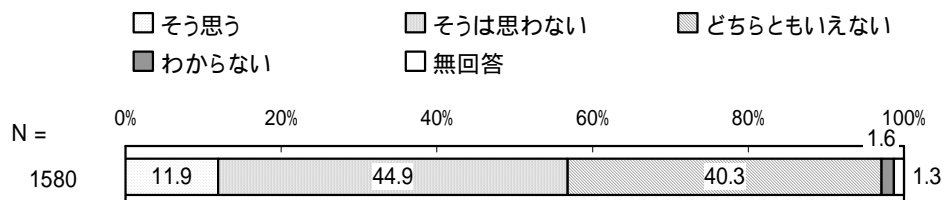


6 - 7 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

「そうは思わない」は44.9%、「そう思う」は11.9%

問 42 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(は1つ)

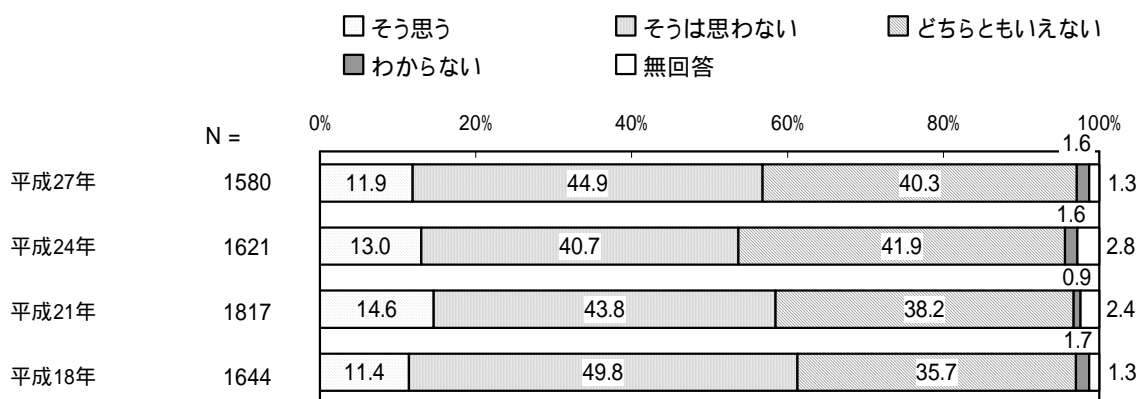
図 6 - 7 - 1



「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思うかたずねたところ、「そうは思わない」(44.9%)と「どちらともいえない」(40.3%)がともに40%を超えている。「そう思う」(11.9%)は10%を超えている。(図6-7-1)

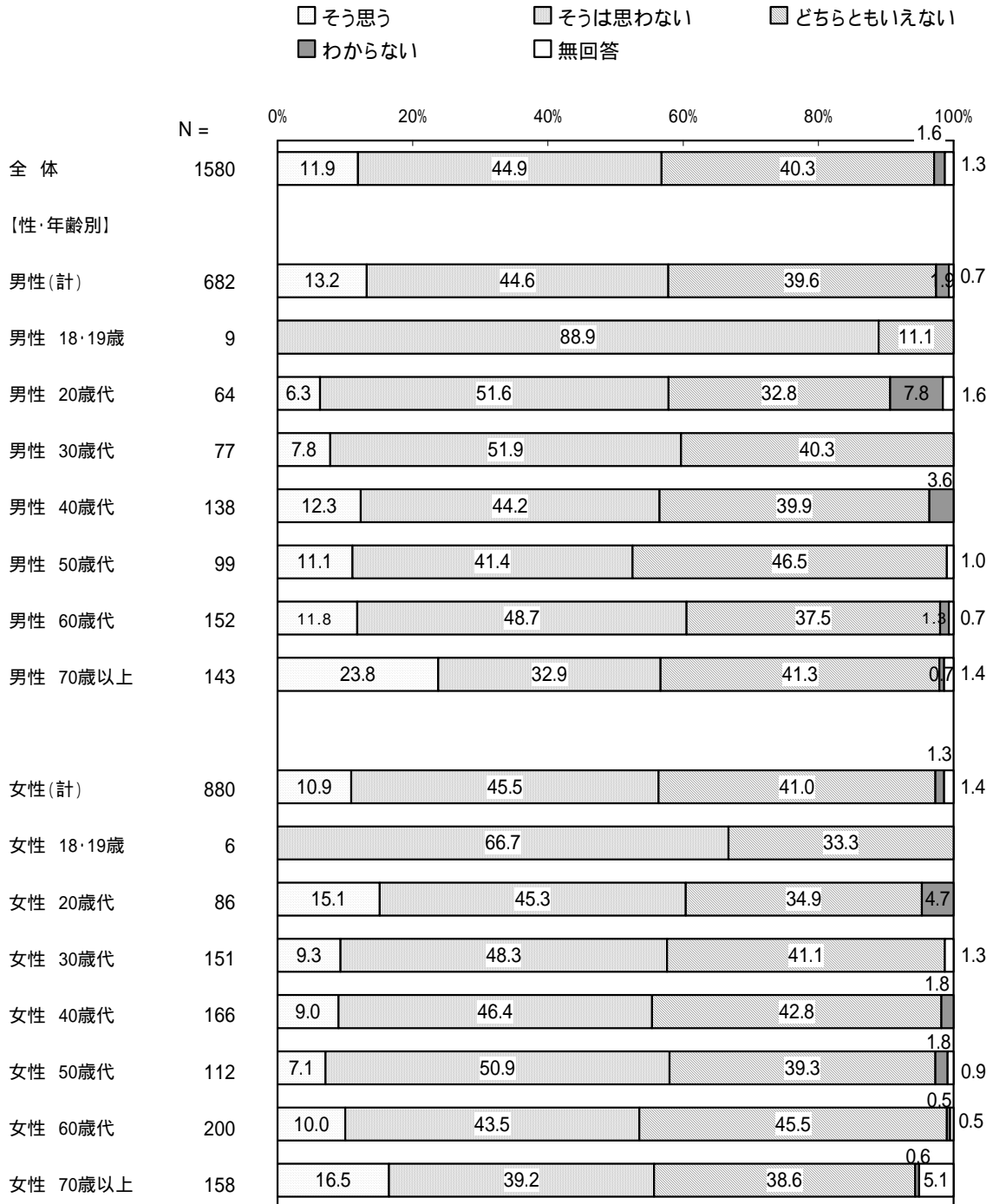
時系列でみると、「そうは思わない」は平成24年から増加し、前回調査から4.2ポイント増加している。(図6-7-2)

図 6 - 7 - 2 時系列 「男は仕事、女は家庭」という考え方について



性・年齢別にみると、「そうは思わない」は男性 20 歳代、30 歳代がともに 50%を超えて多くなっている。「そう思う」は男性 70 歳以上が 20%を超えて多くなっている。(図 6 - 7 - 3)

図 6 - 7 - 3 性・年齢別 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

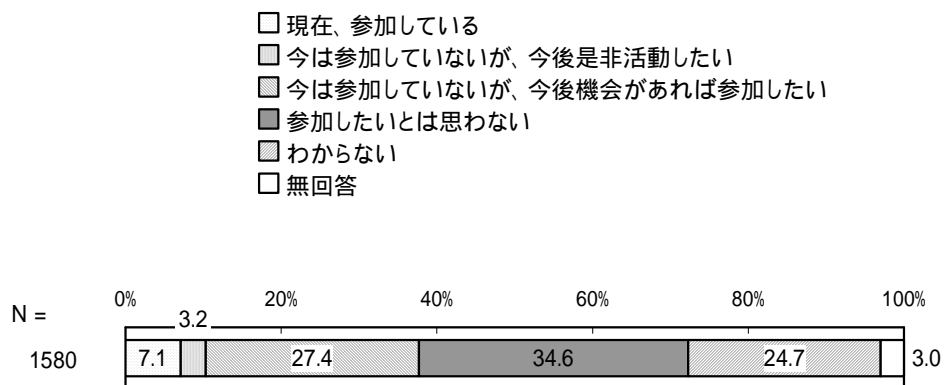


6 - 8 市民活動への参加意向

「参加したいとは思わない」が34.6%

問 43 あなたは、市民活動に参加したいと思いませんか。次の中から1つだけ選んでください。(は1つ)

図 6 - 8 - 1

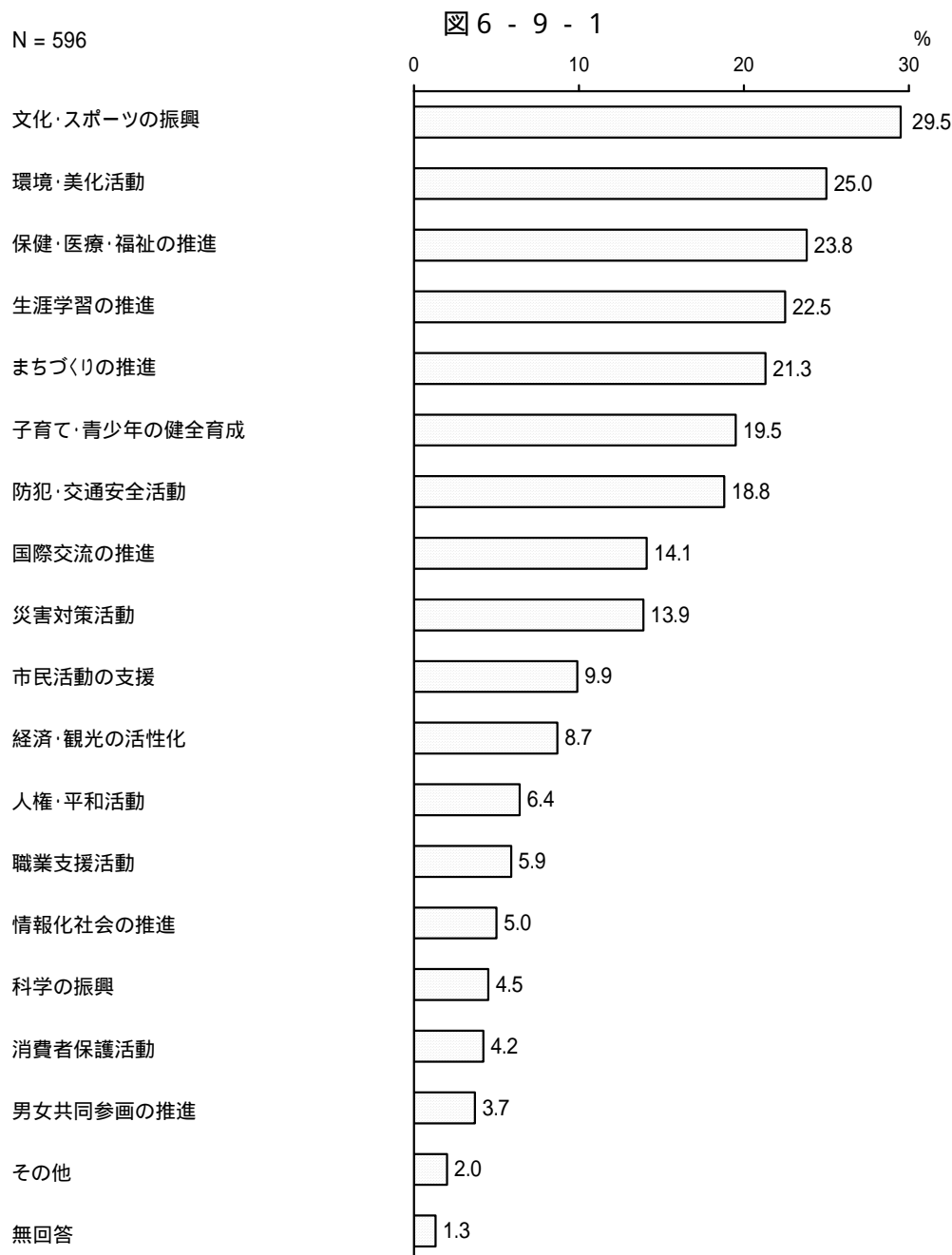


市民活動への参加意向についてたずねたところ、「参加したいとは思わない」(34.6%)が30%半ばと最も多く、以下、「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」(27.4%)、「現在、参加している」(7.1%)、「今は参加していないが、今後是非活動したい」(3.2%)の順となっている。(図6-8-1)

6 - 9 参加したい公益活動の分野

「文化・スポーツの振興」が 29.5%

で 1. ~ 3. と答えた方におたずねします。あなたが参加している、または参加したいと思う公益活動の分野をお選びください。(はいいくつでも)



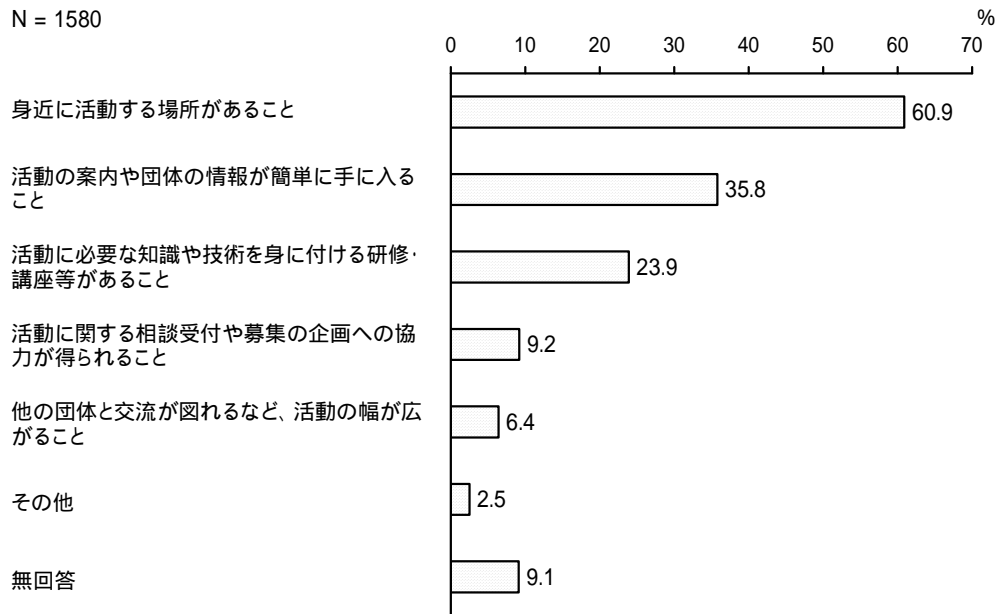
問 43 で「現在、参加している」「今は参加していないが、今後は是非活動したい」「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」と答えた人 (596 人) に参加したい公益活動の分野をたずねたところ、「文化・スポーツの振興」(29.5%) が最も多く 30% 近くとなっており、以下、「環境・美化活動」(25.0%)、「保健・医療・福祉の推進」(23.8%)、「生涯学習の推進」(22.5%)、「まちづくりの推進」(21.3%) などの順となっている。(図 6 - 9 - 1)

6 - 10 市民活動のために必要な支援

「身近に活動する場所があること」が60.9%

問 44 市民活動を行う、または参加する場合、どのような支援があればよいと思いますか。次の中から2つだけ選んでください。(は2つ以内)

図 6 - 10 - 1



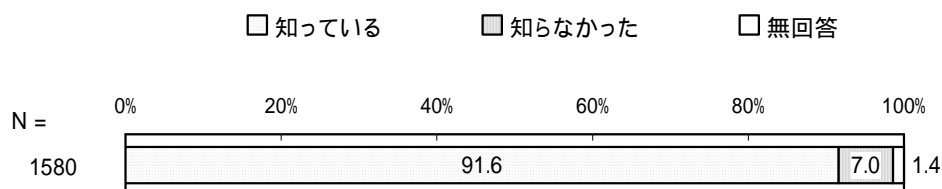
市民活動のために必要な支援をたずねたところ、「身近に活動する場所があること」(60.9%) が最も多く60%を超えており、以下、「活動の案内や団体の情報が簡単に手に入ること」(35.8%)、「活動に必要な知識や技術を身に付ける研修・講座等があること」(23.9%)、「活動に関する相談受付や募集の企画への協力が得られること」(9.2%)、「他の団体と交流が図れるなど、活動の幅が広がること」(6.4%)の順となっている。(図6-10-1)

6 - 11 市民センター・連絡所での手続きの認知度

「知っている」が91.6%

問 45 住民票や戸籍などの証明書の取得、印鑑の登録、また住所変更（転入・転出など）や戸籍の届出（婚姻・出生など）は、市役所本庁舎以外にも、各市民センター（旧出張所）・連絡所でも手続きができることをご存知ですか。

図 6 - 11 - 1



市民センター・連絡所での手続きの認知度をたずねたところ、「知っている」(91.6%)が90%を超えて多くなっている。「知らなかった」(7.0%)は10%未満となっている。(図6-11-1)